

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800340		
法人名	医療法人社団 小野病院		
事業所名	グループホーム レインボー		
所在地	喜多方市関柴町上高領字広面673-6		
自己評価作成日	平成22年5月19日	評価結果市町村受理日	平成22年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成22年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者との「関わりの時間」を設け、利用者の希望に対応できるよう意向の把握に努めケアに活かしている。職員は、柔軟な業務内容をとっていることにより地域のお祭りや催し物等に参加したり、周囲への関わりができるよう支援に努めている。又、協力医療機関との連携により、利用者・家族に健康管理や医療面で安心感を持っていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者支援に関わる記録が丁寧に詳しく書かれており、書類を確認すると利用者の状況が理解出来る。
 2. 職員の研修に力を入れており、全職員が参加するまで同じ内容が繰り返し行われている。
 3. 毎日の生活そのものをリハビリと考えており、利用者のもてる能力を生かした日常の家事等での役割作りがされている。そのため利用者はそれぞれ明るく積極的で、利用者の介護度が維持・安定した状態となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、日常的に職員間で話し合い取り組んでいる。	地域密着型サービスの役割を反映した理念を掲げ、管理者は毎月の会議等の中で職員へ掘り下げて話しをしながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、催し物等への参加又、法人関連施設との交流に努めている。	町内会に加入し地域行事等への参加や近所の子どもや市内の保育園児の訪問を受けて定期交流をしたり、中学生の体験学習を受け入れたりしている。また、事業所の夏祭りを地域へ向け案内し双方向で交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々、生活の中で地域の高齢者の暮らしに役立つことはないか、常に職員間で話し合い、ボランティアやご近所の方との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	入居者の状況、日々の取り組みや活動内容等の報告を行うと共に、出された意見はサービス向上に役立っている。	会議は定期的な開催となっている。事業所の状況報告の後に委員から多くの質問や意見が出され、出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の連絡協議会へ参加することで情報を共有する等、サービス向上に取り組んでいる。	市が主催するグループホーム連絡協議会へ3ヶ月に1回出席している。運営推進会議や連絡協議会の中で事業所の状況を伝え、市の担当者と情報交換しながら協力関係を築いている。今年はスプリンクラーの件で頻繁に連絡を取り設置した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。又、マニュアルを策定し身体拘束を行うことがないように取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践に向けて職員全員へ研修を行い、取り組んでいる。夜間以外は、玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、虐待防止についての勉強会を開催し職員が理解した上でケアをしている。入浴時には全身の皮膚観察を行い打撲等の有無又、職員の言動にも日頃から注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を持ち、在宅介護支援センター職員と相談しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項・契約書等の説明を行い納得を頂いて締結が行えるよう配慮している。契約後に疑問や不安等があれば何時でも質問できることを伝え、本人及び家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が常に話ができる環境を作ると共に関連施設職員がボランティアで来所する等、関わりを持てる機会作りをしている。又、ご家族からの意見等は、玄関に意見箱を設置し、今後の参考にさせて頂いている。	家族面会時やケアプラン作成に伴う家族来訪時等に、日頃の利用者の様子を伝え、家族の意見や要望を聞き取っている。聞き取った意見等は職員間で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し、職員が発言できる機会を設けている。普段の会話の中で出た意見も出きるだけ聞き入れ業務に反映させるようにしている。	管理者は、会議や日常会話の中から職員の意見や要望等聞き取り運営に反映させるよう、定期的に訪問する法人の役員へ伝えている。職員が直接言いづらい場合は、外部の社会保険労務士へ相談出来る体制が用意されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持ちながら業務に当たれるよう努めている。資格取得の推進支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の勉強会では、他職種が自由に参加して勉強できる環境が整っており、ホームでは偏りのないよう順次、交代で参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の連絡協議会への参加で、情報を共有する機会がある。課題等を持ち寄り情報交換を行いながらサービスの向上にむけ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の開始時点で本人と向き合い、生活する場として新生活への不安がないように面談時には、傾聴・共感・受容に努めている。		
16		サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時、本人・家族が抱えている不安、問題等をできる限り共感、受容に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の不安、不満等を共有する事で、必要としている支援を見極め、公正・中立の立場に立ち、随時、家族との情報交換をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに尊重しながら支えあい、より良い関係作りに努めている。「やってみたい」という声を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや日々の生活状況を伝えている。家族、職員ができることを一緒に考え、面会を進める等、より良い関係作りが継続できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事、催し物等への参加を通じ、馴染みの関係が継続的に保たれるよう、家族の協力を得ながら支援している。	地域の祭りに利用者と参加したり、文化祭に利用者の作品を出品したりし、これまでの地域との関わりが継続出来るよう支援している。また、利用者が自宅で家族と過ごすことを希望し、家族の協力を得て支援につなげた人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しやすい入居者には、職員が間に入り、他の入居者との良い関係が作れるように活動を通して、お互いに支えあって行けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所から、その後の様子を伺ったり、家族からも本人の状態等の報告を頂いている。いつでも、気軽に立ち寄って頂けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式(アセスメント)の活用により、入居者の希望に添った支援ができるよう努めている。それぞれ入居者に、担当職員をおき意見をもらうことで意向を把握している。	担当職員が日頃の支援の中で利用者ごとの意向を聞き取っており、センター方式の様式に記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式(アセスメント)の活用により、入居者・家族からの情報を共にこれまでの生活歴等を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族から今までの生活歴を伺い、利用中の様子等、面会時や電話にて報告している。職員間では、申し送りを行い、現状を把握、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今までの生活歴、個性や希望、現在の心身状態を把握すると共に、職員会議時に話し合った内容等、本人・家族と話し合い介護計画を作成している。	利用者の意向、心身状況、職員の気づき等を基に現状に即した介護計画を検討している。必要に応じて計画途中で新しい援助内容等を追加し支援している。計画終了前には計画に沿った支援記録を確認し職員間で意見を出し合い評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態は変化した時や新たな気づきがあった時は、個別に記録を残し、入居者家族と情報を共有しながら心身の状態にあった介護計画の作成に心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズ等にも、より多く対応できるよう柔軟な業務体制を取り、本人の求めている支援を行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安定した暮らしが続けられるように、運営推進会議やボランティアの来所、関連施設との交流等、様々な形での支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、特に申し出のない場合には、協力医療機関の説明をし、その機関の医師をかかりつけ医とすることに同意を頂いている。	入居の際にかかりつけ医の希望について確認をし、協力医療機関がかかりつけ医となっている。通院介助は職員が同行し受診結果をその日に家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護職員と職場内の看護職員との情報を共有しあうことにより、個々の入居者が適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関医師や看護職員と、病状等の情報交換、早期退院に向けた話し合い等ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人並びに家族の意向を尊重し、入居者から希望の医療機関と相談しながら方針の共有をしている。又、安心して暮らしていただく為に出来ること、出来ないことの見極めを職員間で共有しながら支援している。入居者が重度化した場合や終末期に向けての方針を作成した。	本年度、グループホームにおける看取りに関する指針を策定した。必要になった時に家族へ説明し、家族の同意を得ることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的に勉強会を通じ、急変時や事故発生時に即、対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者が安全に避難できるよう年2回、昼夜想定での訓練を実施している。又、非常時の役割分担についても点検をしている。	消防法の改正に伴い、スプリンクラーを設置し、運営推進会議で地域へ協力を呼びかけた。今年は、2ヶ月に1回避難訓練を予定している。しかし、夜勤職員1名を想定した避難訓練は実施していない。	職員は、昼夜を問わず利用者を避難させられるよう訓練を繰り返して欲しい。特に、夜勤職員1名での避難を想定した訓練が必要だと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、言葉掛けには、十分配慮している。勉強会やミーティングを利用し意識付けをしている。	利用者一人ひとりに対する言葉かけや対応に注意するとともに、プライバシーの確保に関する研修会を全職員が参加出来るよう複数回開催している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にあった役割を持ちながら自由で束縛の無い生活が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にあったペースで、その人らしい暮らしが出来るよう日々の生活の中で希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じた、お洒落が楽しめるよう支援している。外出時は、本人の希望に添った身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一緒に食事をしたり、入居者の好みに応じたメニューを考えている。旬の食材の提供、行事にあったメニューで食事を楽しんでいただけよう支援している。	日頃から利用者の好みを取り入れたメニューにするとともに毎月一回、利用者による献立検討チームを編成して食事を楽しむ日が設けられている。日常の調理・配膳・後片付け等も利用者が積極的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎日チェックし、記録に残している。入居者個々にあわせ刻み食等にする等、それぞれの身体状況に合わせた食形態に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが出来ない方には、職員と一緒にやっている。又、月1回は、口腔内のチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しながら自立に向けた声掛け・トイレ誘導等の支援を行っている。	一人ひとりの排泄サインを見ながら、2時間おきの定時誘導と併せてトイレでの排泄支援を行っている。	一人ひとりの排泄状況を細かくチェックし、排泄パターンをつかみ、排泄パターンに基くさりげないトイレ誘導の排泄支援を行うとさらに良いと思われる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに乳製品及び食物繊維含有食品等を取り入れ実施している。又、毎日、ラジオ体操や軽体操を行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人一人の希望の時間・回数・温度・長さ等に配慮している。又、果物や季節の花等を入れて香りを楽しんで入浴していただいている。	利用者の希望を聞き、ほとんど毎日全員が入浴を楽しんでいる。季節の花(あじさい・バラ等)や果物(りんご・みかん等)を利用して入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを把握し、夕食後は、安心して休めるよう声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は常に薬の目的や副作用等について理解している。変化時には協力医療機関医師に、いつでも相談できる体制にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力、得意分野に応じて、活動を促している。外出や買い物同行への声掛けを行い、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、関連事業所等への外出の機会を作り、外の空気や人との交流を通し、刺激を受け、日々の生活に活かしていただけるよう支援している。	事業所周辺の散歩や畑の手入れ、法人内他事業所を訪問したり、コンサート、隣接する町の公園へのドライブ等、利用者の希望を取り入れて外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と話し合い対応している。外出時には、自分でお金を持ち支払う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話できる環境を整えている。又、ホーム内に公衆電話が設置されており、自由に利用できる。年賀状・暑中見舞いを毎年、作成し家族等に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日射し等の眩しさは、ロールカーテンで調節し、照明の強度或いは、テレビのトーンは、入居者の希望に応じて対応している。季節のイベントや飾りつけを入居者と一緒に変えている。	食堂や廊下には季節の花や利用者手作りの貼り絵等が飾り付けられている。食堂の窓は大きい開放感があり、外で外気浴をしているような気分を楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナー、和室等、自由に利用でき気の合った入居者同士でくつろいでいただける空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	プライバシーに配慮しつつ、入居者の個性又、生活歴を尊重し馴染みの物や家族写真等、自由に持ち込んでいただき、居心地良く、その人らしく暮らせるよう工夫している。	入居の際に声掛けし、家族の写真・ぬいぐるみ等思い出の物や馴染みの物を持ち込んでもらい、利用者が居心地よく安心して過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには、それぞれ自分の好みの花を飾ることで自室の間違いが少ない。ホーム内は、バリアフリーになっており、入居者本位の安全な環境となっている。		